

# 石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 (第7期)

## 第3回 策定委員会

日時：平成29年11月9日(木)

場所：石垣市役所2階(第1・2会議室)

石垣市福祉部介護長寿課

21 パールプランいしがき： 石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画  
 (第7期：平成30～32年度) 策定委員会 委員名簿

NO	役割	氏名	所属・役職
1	各種団体の代表	上原 秀政	八重山地区医師会 会長
2	各種団体の代表	砂川 長紀	石垣市自治公民館連絡協議会 会長
3	各種団体の代表	大島 正嗣	石垣市老人クラブ連合会 会長
4	各種団体の代表	島尻 寛雄	石垣市民生委員児童委員連絡協議会会長(第2民児協会長)
5	各種団体の代表	栽 里秋	石垣市民生委員児童委員協議会(第3民児協会長)
6	各種団体の代表	石田 浩子	沖縄県看護協会八重山地区 会長 (女性団体ネットワーク)
7	福祉関係者	国吉 秀樹	沖縄県 八重山保健所 所長
8	福祉関係者	上地 啓一	石垣市社会福祉協議会 事務局長
9	福祉関係者	南風原 信宏	老健施設代表(聖紫花の杜 事務長)
10	福祉関係者	慶田盛 誠	老福施設代表(八重山厚生園園長)
11	福祉関係者	豊川 善克	八重山広域市町村圏事務組合介護認定審査会代表
12	福祉関係者	後藤 美奈	沖縄県介護支援専門員協会八重山支部 推薦
13	福祉関係者	仲松 芳子	障がい者支援団体代表
14	被保険者	高橋 永子	第1号被保険者代表 (石垣市民生委員児童委員連絡協議会(第1民児協委員))
15	被保険者	山下 努	第2号被保険者代表 (社会福祉法人 綾羽福祉会 理事長)
16	学識経験者	當山 房子	グループホーム代表
17	学識経験者	森永 用朗	学識経験者(石垣人権擁護委員協議会委員)
18	市職員	宮良 亜子	石垣市 福祉部長
19	市職員	前底 正之	石垣市 市民保健部長

石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第7期）

— 第3回 策定委員会 —

日時：平成29年11月9日（木） 14：00 ～ 16：00

会場：石垣市役所2階（第1・2会議室）

進行：福祉部 介護長寿課長

（会次第）

1 開会

2 議題

(1) — 地域包括ケア「見える化」システム —

「介護サービス見込み量」算出に係る

基本的な考え方について（算出根拠）・・・（資料1）

(2) 「介護サービス運営法人アンケート」集計結果について・・・（資料3）

(3) 今後のスケジュールについて（レジユメ2ページ参照）

① 平成29年11月24日（金）

「見える化」システムで介護サービス見込み量推計結果の報告

（沖縄県→厚生労働省あて）

② 平成29年11月下旬

「見える化」システム4.5版 リリース（厚生労働省）

※＜第4回＞

日時：平成29年12月22日（金）午後2～4時

会場：石垣市役所2階（第1・2会議室）

資料1 「介護サービス見込み量」算出に係る基本的な考え方について（算出根拠）

資料2 （参考資料） 「沖縄県提供「石垣市（八重山圏域）ヒアリング結果シート（A3版）」

資料3 「介護サービス運営法人アンケート」集計結果について

## 石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第7期）策定委員会スケジュール

（平成29年～平成30年）

会場：（ 石垣市役所2階 第1・2会議室 ）

No.	回数	期日	議題等
1	第1回	7月6日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員委嘱・委員会会長等選出・諮問</li> <li>・第7期介護保険事業計画の策定のポイント</li> <li>・石垣市の高齢者を取りまく現状</li> <li>・地域包括ケア「見える化」システムの概要</li> </ul>
2	第2回	10月6日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅介護実態調査（単純推計・クロス推計版）結果の活用について</li> <li>・居宅介護事業者等アンケートについて</li> <li>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について</li> <li>・地域包括ケア「見える化」システム将来推計について</li> </ul>
3	第3回	11月9日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・－ 地域包括ケア「見える化」システム － 「介護サービス見込み量」算出に係る 基本的な考え方について（算出根拠）</li> <li>・「介護サービス運営法人アンケート」集計結果について</li> </ul>
4	第4回	12月22日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7期介護サービス見込み量の推計と保険料の試算</li> <li>・高齢者福祉計画の骨子の整理、施策の見直し</li> <li>・第6期計画の検証、区域（日常生活圏域）の設定</li> </ul>
5	第5回	1月11日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7期介護保険事業計画における介護保険料の算定について</li> <li>・石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の素案について</li> <li>・地域包括支援センターの機能強化について</li> <li>・地域ケア会議、協議体等における課題の検討 ～地域包括ケアシステム構築のための重点的取組事項～（在宅医療・介護連携の推進、認知症施策の推進、生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進、地域ケア会議の推進、高齢者の居住安定に係る施策との連携、高齢者虐待の防止）</li> <li>・パブリックコメント開始</li> <li>・沖縄県・国との調整報告</li> </ul>
6	第6回	2月1日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント報告</li> <li>・石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画案を答申</li> </ul>
7		2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石垣市介護保険条例の改正案</li> <li>・第7期介護保険事業計画を議会（3月定例会）に報告</li> </ul>
8		3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁議付議</li> </ul>
9		4月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7期 介護保険事業計画スタート</li> </ul>

## 第2回 策定委員会 議事録

< 石垣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（第7期）第2回策定委員会 >

日時：平成29年10月6日（金）14：00～16：00

場所：石垣市役所2階（第1・2会議室）

出席者：【会長】森永用朗【副会長】宮良亜子 ※敬称略  
【委員】上原秀政 砂川長紀 大島正嗣 島尻寛雄 栽里秋 石田浩子  
国吉秀樹 上地啓一 南風原信宏 慶田盛誠 豊川善克 後藤美奈  
高橋永子 山下努 前底正之  
欠席者：【委員】當山房子（出張）、仲松芳子

### 【議題（1）『在宅介護実態調査（単純・クロス集計版）結果』の活用について

資料1・2】

#### <単純集計 資料1説明>

森永会長： 単純集計版の説明を受けて、質問等ございますか。

国吉委員： 最初に対象者数の訂正がございましたが、配布件数が521件で、これは訪問と郵送合わせて521ということですね。それぞれいくらかというのはわかりますか。訪問するのと郵送するのは回収率がちょっと違うはずなので、元々の配布数がどれくらいだったのかなと思いで。わかればお願いいたします。

事務局： 今回の経緯ですが、1月中旬から6名の認定調査員が実際に対象者に聞き取りした件数は250件です。通常5～600件のサンプルがあると母集団的に中身の信憑性が上がるということもありますが、月の更新の数も限られていて、1月から始まり、3月末までには到底集めきれないだろうと。それで、6月いっぱいまで引き伸ばしつつ、併せて郵送を271件程度行って、返信があったのが139件となっています。

国吉委員： わかりました。対象数を確保するために訪問に郵送を加えていって、郵送分はだいたい半分くらいだったということですね。ありがとうございます。

慶田盛委員： 資料1の17ページ、通所介護の合計利用回数について、単位はどのような感じでやっていますか。

事務局： 月あたりです。

## ＜クロス集計 資料2説明＞

森永会長： ポイントの1つとして、在宅限界点の説明がございましたが、介護度が進みますと、介護者、家族におかれましては施設、病院等色々考えてきます。どのようにすれば不安を無くしていくことができるかなど色々あろうかと思えます。

今までの中で質問がありましたらお願い致します。

上原委員： 在宅限界点が問題にあがっていますが、3月末に沖縄県地域医療構想というのがありまして、2030年に八重山圏域の総ベッド数が今より減ることになっています。これは、国民の医療費が右肩上がりなのでそれを抑えるという目的で病床を減らそうということと、在宅限界点のような介護する側がこれ以上面倒みきれないというところで、最終点は在宅で在宅医療、診療をやる場合、自宅で亡くなった時に看取ることができるのかどうかというところにいきつきます。在宅で看取りができるような医療システムが重要だと考えています。

森永会長： 上原委員からでた（質問）のは、ベッド数が県の保健計画の中で決められているものが減ってきているということと合わせて、在宅限界点を考えた場合にどう整合性を図っていくのかということだと思います。今のベッド数を含めて、お願いします。

事務局： 今回の第7期の計画も県の医療構想と並行しながら在宅医療、介護連携を進めていくという計画の策定のひとつの方向性を1つにしているところでございます。県の資料によりますと、28年の報告としては3,943床ございまして、37年に必要床数は3,348床で、全体で595床減るという方向でございまして、地域医療構想とも整合性を取りながら、先ほどの説明にもありましたように在宅医療が増えてくると、その中で小規模多機能型の居宅介護の整備であったり、看護小規模多機能型の居宅介護の整備の充実を進めていくという取り組み等が考えられると思えます。

### 資料：事業者一覧・沖縄県利用者別利用定員（平成29年7月31日現在）説明

森永会長： 現在県内のサービス別利用定員の一覧表を説明していただきましたけど、その中で通所介護から14の種類に分かれたサービスがありますが、石垣市においては32事業所があるということですね。14番目の看護小規模多機能複合型サービスの概念を教えてください。

事務局： 看護小規模多機能型というのは、通常の地域密着型小規模多機能型の居宅介護ということで、軽度の方々が訪問介護や通所（デイサービス）、泊まりということで3つを一体型に提供できるようなサービスに、訪問看護をして医療ニーズの高い方に対して看護師が対応するという訪問看護を組み合わせたのが看護小規模多機能型の居宅介護で新たに国のほうも継承していこうという話がございます。看護小規模多機能型は平成29年7月現在では恩納村と宮古島市に1か所となっております、なかなかサービス提供事業の基盤整備が進んでいないという状況でございます。サービスに対する支援の在り方は素晴らしいですが、実際には対象者を把握して事業につなげることが難しいサービスだと聞いております。

上原委員： 訪問看護事業所が出てきましたが、訪問看護を必要としている方のところに行ったんですけど、訪問看護をしても夜中何かあった時にドクターに電話相談してもいいですかということで、やはり最終的にはドクターの判断を仰がなければならないというところがあり、そのフォローをどのようにやったらいいのか、ご存知の方はいらっしゃらないですか。

森永会長： 事務局、お答えをお願いします。どのようにして連携をとっていくかということですね。

後藤委員： 在宅での看取り、在宅で診療を受けていらっしゃる方ですが、訪問看護ステーションはほとんど緊急時の訪問加算をとってしまっていて、例えば定時の訪問以外の夜間に体調が急変した場合には、ご本人やご家族が訪問看護ステーションに深夜電話を入れます。その病状を伺って看護師が判断をして、訪問が必要であれば深夜であっても在宅に訪問します。万が一その時点で亡くなっておられた、呼吸が停止していたという場合には、訪問診療の担当医に電話をしますが、そのような場合は事前に話し合いをされていて、担当医は時間を確認して翌朝に伺うという流れで看取りをされます。亡くなる以外の通常の場合であっても、事前にこういった時には救急車を呼ばないとか、いくつかの約束事をしながら連携して対応させて頂いております。夜中に先生今すぐ来てくださいということはほとんどなくて、訪問看護師が動いてくださるという流れになっているかと思っております。

上原委員： それに関連して、八重山圏域は在宅死のパーセンテージが沖縄県で一番高く、ドクターによる死亡診断書が書けないため、死体検案となってしまう件数が沖縄県内で一番高いです。ちゃんと病院や訪問診療、訪問医療でチームを組んでやっているところは上手くいくと思いますが、そこから漏れてしまった場合に在宅死のパーセンテージが多いです。

**【議題2 『居宅介護支援事業者等アンケート結果の概要』について 資料4 説明】**

**【議題3 『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の概要』について**

**資料5 説明】**

森永会長： ただいま事務局から説明がありましたが、この件について何か聞きたいことがございましたらお願いします。

上原委員： 資料5、26 ページ間7 健康についての(2)主観的幸福感の把握について、幸福感の高い高齢者の割合は男性が18.7%、女性が25.9%で、(3)うつ傾向の高齢者の把握は男性が17.1%、女性が27.9%でうつ傾向も女性が高くなっています。このギャップはどのような要素によるのか、もしわかればお願いします。

事務局： 今の質問はかなり難しく、25 ページに関しては中間点以上のものは幸福度があるということで女性の方が男性に比べてポイントが高いという状況になっています。同じようにうつ状態にあるというものについても、この設問に該当する方についてデータとして取り上げたということになっています。その相関関係については、事務局では整理がされていないというのが実情でございます。大変申し訳ございません。

**【議題(4) 地域包括ケア「見える化」システム将来推計について 資料6 説明】**

森永会長： 見える化システムを活用して、介護サービスの見込み量と併せて保険料基準額の推計を出していくことが大事であります。そういうことで、次回も皆さんに意見を出して頂きまして、それが反映されるようにして頂きたいと思います。認定率が下がっているのは非常に良いことです。介護予防事業のいきいき百歳体操を各地で行っている効果なのかということ、認定率が下がってきています。そういうことで、介護予防事業の展開をしながら、保険料の基準額の推計を出していくことになると思います。それでは、議題はこれで終わりとしします。

事務局： 森永会長ありがとうございました。本日の議題は4つございました、資料もボリュームがありましたので端折っての説明になりましたが、委員の皆様には今日の第2回の実態調査の結果も踏まえて、第3回は**11月9日(木)**を予定してございます。また開催近くなりましたら、開催案内通知をお送りしてご案内をしたいと思っております。次回からは、見える化システムの将来推計に基づきまして、具体的な施策に反映して参りたいと考えています。今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げまして、第2回委員会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。お疲れ様でした。